

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立武内小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>1. 「学力向上(深い学びの実現)」「健康・体づくり(望ましい生活習慣の形成)」等の項目に課題があったが、技部「わがとも」の実践や体部「学校生活5か条」などの取組を行い、概ね良好な達成状況である。</p> <p>2. 業務改善、教職員の働き方改革の推進については、校時表や行事の時間短縮などの改善を随時行っている状態である。課題は地域とのつながりを大事にしつつ、行事の見直しをしていくかは課題である。</p> <p>3. 「志を高める教育」を推進するにあたって、カリキュラムの見直しや家庭教育の向上は必須である。自己肯定感を育む教育活動の充実を各都で取り組んでいく必要がある。</p>
2 学校教育目標	楽しく学ぶ。みんなで学ぶ。深く学ぶ。～友だちとの協働学習を通して、学ぶ楽しさ、できた喜びを大切に育み、学びの成果を発揮します～
3 本年度の重点目標	<p>① 校内研究等(プログラミング学習)を通して、継続して新学習指導要領の実施における深い学びを創造する</p> <p>② 各部における様々な取り組みを通して、望ましい生活習慣や自他に対する肯定感を育む</p> <p>③ 働き方改革の推進を通して、教職員の心身の健康増進と、児童と向き合う時間確保をめざす</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上対策シートを共有し、各学年における課題に対して学校全体で取り組む。 ・定期的に自身のマイプランを見直しする機会を設け、目標に対する進捗状況を確認する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上シートを作成し、定期的に進捗状況の確認し、日々の授業を計画的に進めることができた。 ・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は「できて」「おおむねできて」を合わせると100%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の皆様方には子供たちの学力向上のために計画的に進めて頂き、感謝している。 ・自己評価は達成したことは分かるが、マイプランの成果指標は管理職とかが見て正しく設定できればいいと思う。 	技部
	○協働的に問題を解決し、深く考える児童の育成	○年度末の学習アンケートにおいて、自分の考えを表現すること、友だちの考えを聞いて自分の考えを再考する、「わがとも」の振り返りができていると回答している児童が80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業において振り返りを発表する時間を設定し、自分の考えを表現したり友だちの意見を聞いたりし、考えを深めることができるようにする。 ・「わがとも」フィードを実施し、全校の取り組みを紹介しあうことで、表現の仕方を学んだり、友だちの考えの良いところを認め合ったりできるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の学習アンケートでは、自分の考えを表現することができたと答えた児童は約89%、自分の考えを再考することができたと思えた児童は約88%であった。目標であった3項目についてすべて80%以上を達成することができた。 ・後期には全校での取り組みとして「自学リフレク」を開催し、授業参観で保護者の方に観ていただき、花まるタイムで地域の方に観ていただくことで、意欲的に自主学習に取り組むことができた。また、「いいわーど」で互いの良い部分を認めあうことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自身を振り返り友達と考え合い、解決し合い、学ぶことのできる今に感謝。 ・アンケートの内容、学年別の結果はどうなっているのか。 ・花まるタイムが復活して地域と人と身近な形で学習できるのはよかった。 	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいると回答する児童を85%にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・青空教室やクリーンタイムの振り返りで児童相互の認め合いができるように「今日のMVP」を決め、掲示することで関心を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「青空教室」や「わんぱく遊び」や「クリーンタイム」で違う学年の友達と助け合って活動できていると回答する児童が95.3%だった。 ・「今日のMVP」や活動の様子の写真を掲示したことで次の活動への意欲が高まった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日のMVP」を拝見して学年を問わず子どもたちがお互いのことをよく知る機会になると思う。 ・縦割り班活動は有効だと思う。 ・幼児期からの心の教育が大切だと思う。 	心部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ未然防止、早期発見、早期対応のために組織的対応ができていると回答する教員を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談後継の共通理解の場を設け、各学年の気になる児童への対応、支援を全員で行うようにする。 ・毎週の連絡会で教育相談の時間を設け、いじめ等の早期発見に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談後継の共通理解の場を設けていると回答する教員は100%だった。 ・年2回の教育相談後継の共通理解の場を設けることで、学校全体で早期発見やその後の対応に取り組んでいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめと自らは分からず遊びの中での出来事と思っている子がいる。そのような子への対応は難しい。 ・未然防止が大切。早期発見ができるような研修が必要。本音で話せるような関係はできているのか。(先生と児童・児童同士) ・先生方も判断が難しい。 	心部
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●学校生活5か条の項目を守れていると回答する児童80%	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度は目標値を達成できたので、今年度は行動の質を高めていきたい。そのために毎月の生活講話に加え、毎月の第1週目に強調週間を設定する。また、年間2回の振り返りを実施し、意識を高めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活5か条、家庭生活3か条を守って生活することができると回答した児童が85%以上達成することができた。 ・廊下歩行等の自己評価は高いが、安全面のため指導を強化していきたい。挨拶や返事についても質を高めていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事は家庭でのしつけが特に重要と思われる。家庭と学校が連携した指導をお願いしたい。 ・生徒からの元気な挨拶がない。挨拶は生活の基本である。 ・時折、挨拶については気になるところも見受けられますが、振り返って手を振ったり、会釈をしたり…武内ならではの素直さと素朴さを感じ、胸が熱くなる。 	体部
	○保健指導の継続とゲーム・YouTube依存の改善に向けた取り組みを実施	○自主的に健康な体づくりに取り組んでいる児童及び、家庭でのゲーム・テレビ時間を自己管理できる児童を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣形成にむけて運動場利用の奨励と体育の準備運動で取り組むサーキットコースの取組を推進していく。 ・YouTubeやゲームの弊害を理解し、ノーテレビノーゲームを推進する。児童と保護者が一緒に取り組めるようにテレビやゲームの時間のマイルールを作成しチャレンジ札を配布する。また、YouTubeやゲームについて学べる講演会を企画する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な体づくりにするために、昼休みに進んで外遊びをすることや体育の授業で進んで活動することができると回答した児童が90%以上達成することができた。 ・後期のテレビ・ゲームの時間を意識できたが、達成率は70%だったので来年度も継続して啓発していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動について意識すればできると思う。家庭におけるYouTube依存については家庭環境や保護者の理解度が差が出てくる。保護者の研修が大切だと思う。 ・テレビ・ゲームの時間が長くなっていると思う。減少策を。 	体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間(月45時間・年360時間)を下回る教職員を85%にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日18:30の退勤促進。月初めに個人へ時間外勤務時間の累計と年間360時間の到達割合を示すことで、自己タイムマネジメントの意識を持たせる。 ・地域行事等の時間外勤務については「帰らなっ券」を配付し、自分時間の活用を促進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・退勤目標の18:30にはほとんどの職員は退勤できるようになったが、研究授業などの時期によっては退勤時間が遅くなり、職員が疲弊している状態が見られた。職員自身の働き方への意識改革はできつつあるが、更なる行事の見直しを続けていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・18:30といえば冬場は真っ暗。一般企業並みに、18時には職員室を出るようになればよい。そのためには人員を増やす等の改革が必要。 ・職員の意識改革は必要だと思うが、教育委員会等の改革がもっと必要だと思う。(調査やアンケート等が多すぎる) ・一昨年に比べると、ずいぶん職員の退勤時間が早くなった。 	校長・教頭
	○業務効率化の推進	○児童に関する諸問題について、組織対応ができていると回答する職員を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・スズキ校務の機能を有効に活用し、業務のスリム化を図る。 ・健康づくり情報誌「Smile」を連絡会で配付し、健康管理・メンタルヘルスに関する声かけをする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の学校評価「児童対応を組織できている」は、88.9%が「できて」と回答した。毎週の連絡会で細かい児童の変化を報告したり、スズキ校務に毎日の出欠状況を養護教諭が入力し早急に管理職が児童の様子を把握したりできたことが、とても有効だったと考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のスリム化は大事だが、児童とのふれあい対応は大切に。 ・先生方の努力が成果を見せていると思う。 	校長・教頭

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	○社会や地域に貢献し、自己肯定感を育む教育活動の充実	○総合的な学習の時間、特別活動等の学習活動を通して、自己肯定感や達成感をもてた児童を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の教育課程において、地域や家庭とのつながりを生かした学習を取り入れる。 ・キャリアパスポートの学年末の振り返りアンケートで、肯定的な回答ができた児童を80%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・予定を変更せざるを得ない状況もあったが、計画的に地域の人材や外部の講師を招き、実施することができた。 ・保護者への志を高める教育への問いでは、「よくできている」「大体できている」を合わせると、67.6%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の積極的な活用が望ましい。住民と児童とも有意義。 ・外部の力は強いと感じることが多くある。 ・新型コロナウイルス感染症の中でのことだったとの、仕方ないことではないだろうか。 	教務・各担任
○特別支援教育の充実	○支援を必要とする児童の支援体制の充実	○特別支援教育に関する専門的な知識や支援方法が向上したと回答する教員を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修を年3回実施する。 ・必要に応じてケース会議を開催し全体に共有する。 ・保護者への啓発活動(特別支援教育だより発行や講演会など)を行う。 ・特別支援学級参観を年1回行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する専門的な知識や支援方法が向上したと回答した教職員が89.9%だった。 ・特別支援学級の授業を校内職員が参観することで、支援級での児童の学習の様子を理解することが出来た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の共通理解は当然だが、保護者・住民への特別支援教育の実情を理解してもらうことも必要かと。 ・本当に大変だが、親の思いからすると、理解してくれる先生方がいらっしやることは、とても安心。 ・社会福祉施設の参観もできたらよい。 	特別支援教育 コーディネーター・各担任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康・体づくり(望ましい生活習慣の形成)」に課題がみられた。特に、家庭でのゲーム・YouTube視聴時間の大幅な増加が低年齢化しており、児童の基本的な生活習慣の乱れが危惧される。来年度は、学校と家庭と連携した取組を推進していきたい。 ・業務改善、教職員の働き方改革の推進については、だいぶ推進されてきたが、コロナ感染対策が緩和される中、どのように行事を復活させていくかは重要な課題である。 ・「志を高める教育」を推進するにあたっては、地域・家庭との連携した教育活動を更に充実させ、自他を大切にしたい自己肯定感を育む教育活動をすすめていきたい。